

開館から今日までを振り返って

図書館長 富川 孝子

本学図書館は、平成6年に開館した短大図書館を基盤に平成14年の大学開学と同時に開館しました。短大図書館に関わった多くの方々の努力により、開館時には大学図書館としての基礎が築かれていました。開館から今日までに最大の努力を要したことは、図書館に整備する図書の選書でした。大学開学に伴う特別予算による図書の整備は、平成13年度から平成16年度まで4年間をかけて行われました。教員が専門とする領域の図書の選書だけではなく、看護学の研究方法に関する図書、看護学を学問的に支持する人文・社会科学系図書、WHOやOECD等の国際機関の刊行物などの選書に努めました。その結果、開学時は28,682冊であった図書が平成16年度末には41,823冊に増えました。平成17年度は大学院開設に向けた図書の選書を行っています。大学における教育・研究と図書館は一体のもので、適切な選書が行われるか否かは教育・研究に重大な影響を与えます。

大学開学時に開館時間の1時間延長、嘱託司書1名の増員が行われましたが、その後も施設・設備や利用者サービスに関して多くの改善がなされてきました。施設・設備の面では、平成15年度に

非常口設置、入口ドア自動化、ノートパソコン使用閲覧席設置、平成16年度に耐震ブックキーパー設置が行われました。利用者サービスの面では、平成15年度に地域資料コーナーと本学資料コーナーの設置、図書館「利用案内」の作成が行われました。今では当たり前になっているWebOPACによる蔵書検索や医学中央雑誌Web版利用も平成14年度から可能になりました。オンラインデータベースは、平成14年度にCINAHL、PsycINFO、平成15年度にヨミダス文書館、平成17年度にCochrane Libraryが導入されました。平成16年10月の中越大地震を受けて、災害看護に関する文献コーナーの設置、図書館ホームページへの災害看護文献リスト掲載が行われました。今後もさらなる改善が必要ですが、上に述べてきた改善の多くは、大学準備室時代から今日に至るまでの図書館職員、教員、事務局による努力の結果と考えます。

最後に、平成17年3月まで2年間にわたり専任司書として勤務し、多大な貢献をされた阿部昌子氏が平成17年7月に亡くなられました。心からご冥福をお祈り致します。



展示ケースが寄付されました

2003年4月より2年間本学図書館司書として勤務され、2005年新潟県立図書館に異動された阿部昌子さんが2005年7月9日にご逝去されました。

業務マニュアルの整備をはじめ、雑誌の遡及入力、地域資料コーナー、災害看護・地震関係資料コーナーの設置など本学図書館の整備、発展に尽力されました。

先般、ご遺族より本学のために展示ケースのご寄付を賜り、2005年12月に設置いたしました。

Contents…(ページ)

開館から今日までを振り返って…(1)

書評 『みんなの憲法二十四条』…(2)

エッセイ…(2)～(3)

卒業アルバム等の取扱いについて…(4)

文献検索講習会報告…(4)

文献検索データベース紹介

(Cochrane Library)…(5)

寄贈者名簿…(6)

連載企画 1. 書評

『みんなの憲法二十四条』 福島みずほ編 明石書店 2005

講師 大友優子

本書は「家族のなかの私」「男女平等への道しるべ」「家族制度への挑戦と家族のこれから」「個人のライフスタイルを支えて」「バックラッシュをこえて」、及び「平和を愛する」の全6章から成る。著者は22名と公募で選ばれた37人の計59人である。著者は年齢や性別、職業など様々であり、戦争により身内をなくした人、年金生活者、同性愛者、介護をしている人、マイノリティなどが、憲法二十四条に対する思いや体験をそれぞれの立場から書いている。

現在、わが国では憲法改正の動きがあり、議論が活発になっている。現行憲法の二十四条は、元GHQ民生局スタッフであったベアテ・シロタ・ゴードンさんが起草者であるが、日本女性の権利を心から望んで書いたと述べている。幼少時から約10年間東京で生活していた彼女は、当時の日本女性が全然権利を持っていなかったことをよく知っていたため、配偶者の選択から、妊婦が国から援助を受ける権利にいたるまで、憲法に入れ

たかったのである(残念ながら、社会福祉に関することや、婚姻に関して「親の強制ではなく」と「かつ男性の支配ではなく」という言葉は削除された)。

最近、わが国の多くの職場では合理化のためとして、妊娠・出産した女性、子育て中の女性などを「生産に貢献しない」と見なし、このような人々を抑圧し、社会の場から排除する傾向にある。若者や女性が子どもを持たない選択をするのは、将来の先行きに不安が多い現代社会においては止むを得ない生き方かもしれない。少子高齢化や不安定な社会経済によって疲弊し、脆弱になっている現在の「家族」を守るためには、両性の尊厳や平等を憲法で保障しない限りは難しい。憲法二十四条を守りたいと考える人々の声を集めた本書は、これからの男女のあり方を考える上で、興味ある一冊である(なお、本書には私の拙文も掲載されております)。

○請求記号：323.143-F84 (棚16左側 (2階))

連載企画 2. エッセイ

文献検索のありがたさ 4年 久保山亨

三年生はPBLで、四年生は卒業研究などで何かと資料が必要不可欠である。そのような際、助かるのが文献検索である。医学中央雑誌や国会図書館だけでなく、全国の図書館から欲しい文献を見つけ出すことができる。

私は精神障害者の地域生活支援に関する研究を行っているが、変化の著しい分野であるため新鮮な情報がなくてはならない。したがって、山のような文献複写依頼書をいっぺんにカウンターに出すこともしばしばである。

…しかし司書の方は、いやな顔一つせず依頼書を見ながら一つひとつ文献を探し出してくれる。

届いた文献の送り元は全国各地、それが「これだ!」という内容だった時の喜びといったらない!

全国の看護大学図書館の、そして全国の図書館の司書の皆様へ、本当にありがとうとお礼を言いたい。

そして新潟県立看護大学の本たちも、全国からのお呼びを待っているのであろうか。

改めて図書館の本は大切に扱おう、そして卒業研究でも文献をしっかり役立てようと思う。

図書館の思い出 4年 仙坂あゆみ

初めて大学図書館で本を借りたのは1年生の前期、形態機能学のテストが近づいてきた頃。勉強を上手くできない自分が図書館にやってきたのには、薦められた形態機能学の本を探すため。そして、ありました、例の本(※1)が。見やすいイラストつきのその本を読んでいくうちに、難しく捉えすぎていた形態機能学がすんなり入ってくるように思えました。ここから、講義で得た知識の理解を手伝うのが図書館の本の役割だと実感することができました。

話は変わりまして、2年生の時に図書館でアルバイトとして書架整理をしていました。そこで、興味をそそる本が大学図書館にあることを知りました。看護の学習に疲れていた自分ですが、看護や自分の心の中を見つめ直せるような本(※2, 3)などがあり、図書館を敬遠していたことを悔やみました。

情報を得るために 4年 中島涼子

大学に入学し、インターネットを使用するの情報の方法を知った。インターネットを利用することによって、自分の知りたい最新の情報を即座に入手することができ、インターネットは、情報収集のためにとっても便利なものであることが分かった。しかし、インターネットでの情報を検索しているうちに、インターネットからの情報は、その情報がどこから出ているか明確でない場合も多く、すべての情報が正しい情報であるとは限らないということも分かった。そして、インターネットから情報を得るよりも、図書館で文献を検索し、その文献から情報を入手するほうが、的確な情報を得ることができると感じるようになった。図書は、情報の新しさから考えると、インターネットには劣るかもしれない。しかし、その分、

そして、3年生になるとPBLや演習や実習で、図書館の利用は欠かせないものとなりました。4年生になってからは、看護研究でお世話になっています。文献を図書館のパソコンで調べ、自分の研究に近いものを探して印刷したり、取り寄せたりしています。

図書館は勉強する場でもありますが、それだけの場ではないと思います。勉強に疲れたらリラックスして雑誌を読んだり、看護学以外の本を読んでみて自分の視野を広げてみることもできたりする場でもあると思います。

文中に出てきた図書を紹介していただきました

※1 境章著『目でみるからだのメカニズム 新訂』
医学書院 2000(493.1-Sa29(棚7左側))

※2 真壁伍郎著『看護しつつ生きるとは、なに』
日本看護協会出版会 1986(N120-Ma33(棚1右側))

※3 パット・バルマー著『自分を好きになる本』
1991(159.7-P18-1)、『おとなになる本』
1994(159.7-P18-2)、『夢をかなえる本』
1997(159.7-P18-3)、3冊とも径書房(棚14左側)

昔から伝えられてきた知識や科学的な根拠に基づいて発表されている情報が豊富であり、信頼性が大きい。一度、図書として発行されたものは簡単に取り消すことができず、その後も半永久的に残るために、その内容に、著者の責任感が反映されるのかもしれない。

このように、大学に入学し、インターネットを利用して情報を検索することの長所と短所を知ると同時に、図書を利用することの大切さを感じることができた。

文字を利用できることは、他の動物には無い、人間だけに与えられた特別な能力である。文字を使って、現在から未来へ情報を伝達するために、図書は現在も重要な役割を果たしており、さらに、今後も重要なものとして、受け継がれていくことだろう。インターネットを濫用するのではなく、図書を上手に活用することで、信頼性のある情報から知識を増やしていきたいと思う。

図書館からのコメント 今回のエッセイはみな4年生でした。どの方も図書館サービスへの理解と活用、「文献」に対する真摯な態度が見て取れて、正直驚きました。学生がこれだけ理解して卒業されていくことが図書館の使命のひとつでもあり、大変嬉しい限りです。こちらこそご利用ありがとうございました。

図書館は大学のためにあり、また地域のためにもあります。今後もご活用ください。

卒業アルバム等の取扱いについて～個人情報保護法に関連して～

平成 17 年 4 月より個人情報保護法が施行されました。

そのことに関連して、卒業アルバム等の図書館での取扱いについて変更しましたのでお知らせします。

当館ではこれまで新潟県立看護短期大学の卒業アルバムおよび新潟県立中央病院附属看護専門学校と新潟県公衆衛生看護学校の閉校記念誌などを閲覧に供していました。

これらの資料には在籍していた人たちの住所（個人情報）が記載されています。

そのため、これらは①一般に公開された資料ではないこと、②第三者への情報提供について本人の同意を得ていないことにより、図書館で提供しないことになりました。

卒業アルバム・閉校記念誌以外にも個人情報が載っている資料で①、②に該当する資料は同様の取扱いとします。

ご理解とご協力をお願いします。不明な点は係員へ遠慮なくお尋ねください。

文献検索講習会報告

2005 年 7 月に図書館が行った文献検索講習会を報告します。

1. 参加状況

講習日	—	参加者数	うち学外者数
7/20(水)	初級	18	13
	中級	16	12
7/21(木)	初級	17	16
	中級	14	12
7/25(月)	初級	22	17
	中級	18	13

初級では WebOPAC の使い方を中心に図書館の基本的な利用方法について、中級では医学中央雑誌 Web の使い方を中心に雑誌論文の検索・入手方法を講習しました。

一人 1 台パソコンを使用させるため定員 20 名としましたが、使用できなくても参加したいという熱心な方もいたので定員オーバーした日がありました。近隣の病院へ案内を出したため、学外者の参加が多く、また講習態度

も学生よりも熱心でした。

2. 参加者の声 以下はすべて学外者からのコメントです。

- ・ 周りに人が数人いてくれたので、途中分からなくなった時に、声をかけて聞くことが出来たので良かった。
- ・ 色々な情報が得られることが知れてよかった。
- ・ こういった講習は初めて受けました。すごくためになった気持ちです。(遠くから来たかいたが！) 病院の、他の職員へも伝えられたらと思います、その前に自分が使いこなせることが先のようにも思います。図書の内容がすばらしいので、また来たらと思います。
- ・ 途中分からない所があったがどんどん進んでいってその後が聞き取れなくなってしまった。
- ・ 初級の内容をもっと詳しく時間をかけてゆっくり行ってほしかった。
- ・ 内容よかったです、理解遅くて申し訳ないようでした。
- ・ (講習会でしてほしい内容について) 具体的に図書館で本を探したかった。

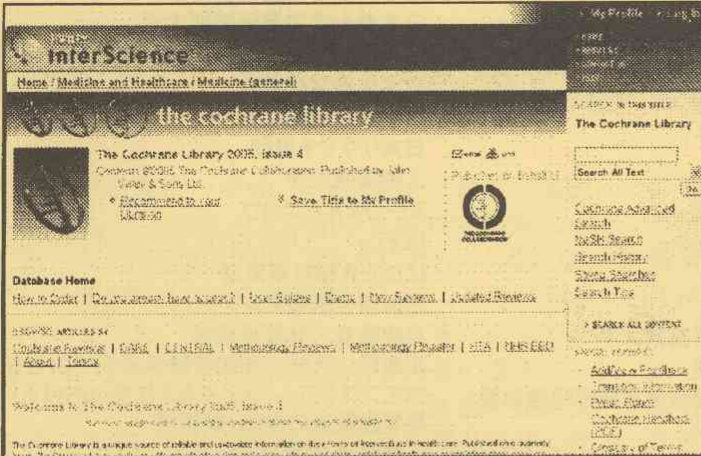
3. 今後について

参加者からの声を見ると、各人の理解度に応じた講習会を行えるのが理想ですが、そうした講習会を行うには、体制が不十分です。しかし、現体制でできるだけ参加者からの要望に応えられるよう工夫をしたいと思います。また、学生の参加が少ないので、参加しやすい日程設定と参加意欲のわく案内方法および講習会内容を考えたいです。

文献検索データベース紹介

平成 17 年度から学内で利用可能となったデータベースを簡単に紹介します。

The Cochrane Library(コクランライブラリー)



EBM (科学的根拠に基づいた最適な医療) 関連の文献探索に大変有効なツールです。

システマティック・レビュー (臨床試験を収集し、科学的に信頼できる試験だけを選び、統計学的手法でデータをまとめて総合評価したレビュー論文: 以下 SR) を全文で収録しています。

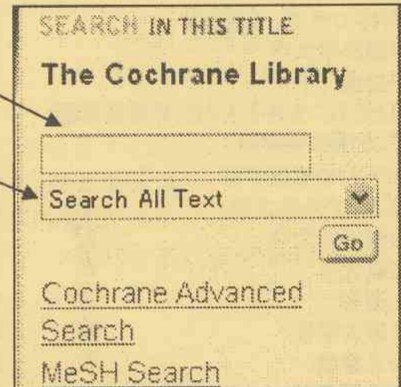
ある治療は有効か、他の治療法に比べてどれだけ優れていて安全かなど、治療・予防の問題解決のためのデータベースです。

コクランライブラリーはいくつかのデータベースから成っていますが、その中心的なデータベースである The Cochrane Database of Systematic Reviews (Cochrane Reviews : CDSR)で、疑問に対する SR がヒットすれば妥当性の高い結果が得られたといえるのです。

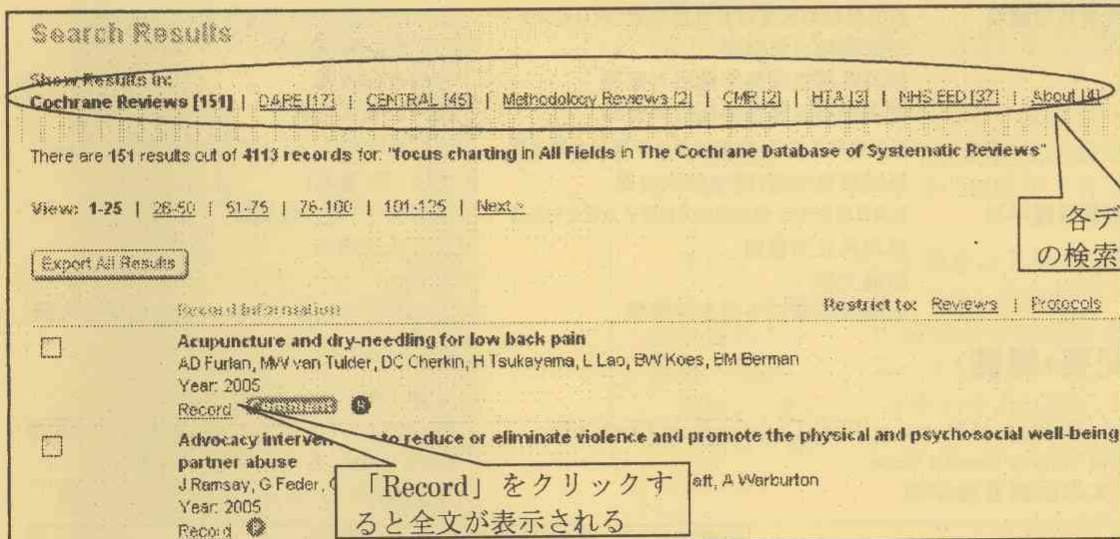
初期画面右上の検索ボックス (右図) にキーワードを入力すると簡易検索ができます。

その下のプルダウンメニューでは「Search All Text」以外に「Record Title」「Author」などを検索対象とすることもできます。

詳細検索をしたい場合は、「Cochrane Advanced Search」のリンクをクリックしてください。検索対象の掛け合わせのほか、上記の各データベースを指定して検索することもできます。



検索結果は以下のように表示されます。
CDSR に該当があれば最初に表示されます。



各データベースの検索結果件数

「Record」をクリックすると全文が表示される

また、印刷する場合は、全文表示画面の左上にある **PDF (Size256K)** をクリックすると PDF ファイルが開きますので、Adobe Reader の印刷機能を使って印刷するときれいで無駄のない印刷ができます。より詳しい検索方法は、ワイリー・ジャパンが作成したコクランライブラリーのページ (<http://www.wiley.co.jp/WIS/cochrane.html>)から日本語版ユーザーガイド (PDF) をご覧ください。

寄贈者名簿 <2005/6/1~2006/1/12受入分> (五十音順 敬称略)

下記のみなさまよりご寄贈いただきました。大変ありがとうございました。

- あ行**
 愛知県立大学
 愛知県立看護大学附属図書館
 安梅勅江(国立看護大学教授)
 石川県立看護大学
 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター
 糸魚川総合病院
 井上みゆき講師
 蝦名美智子(神戸市看護大学教授)
 大久保明子助手
 岡村典子助手
 沖縄県立看護大学
- か行**
 加固正子教授
 金子史代(著者)
 鹿屋体育大学
 北川公子助教授
 木村知洋(翻訳者)
 京都大学大学院人間・環境学研究所
 京都大学高等教育研究開発推進センター
 京都府立大学
 協和発酵工業
 くびき野NPOサポートセンター
 熊本保健科学大学
 結核予防会
 血友病とともに生きる人のための委員会
 (はばたき福祉事業団)
 高知女子大学看護学部
 公立はこだて未来大学
 国際医療福祉大学
 国際教養大学
 国土交通省
 国立看護大学校
 国立公文書館
 国立国会図書館
 国立大学入学者選抜研究連絡協議会
- さ行**
 佐々木美佐子教授
 静岡県立大学
 島根県立看護短期大学
 清水紀男(一般利用者)
 首都大学東京健康福祉学部看護学科
 上越教育大学
 上越国際交流協会
- 上越市健康づくり推進課**
 上越市創造行政研究所
 鈴木進二(著者)
 聖マリア病院
 仙台白百合女子大学
- た行**
 大学基準協会
 高塚麻由助手
 多摩美術大学
 長寿科学振興財団
 長寿社会開発センター
 都留文科大学
 桐蔭横浜大学
 東海大学医療技術短期大学
 東京女子医科大学
 東京都福祉保健局保健政策部保健政策課保健指導調整係
 東京電力
 栃南市教育委員会生涯学習課
 富山医科薬科大学
- な行**
 ながおか医療生活協同組合
 長岡赤十字病院
 長岡大学
 中島紀恵子学長
 名古屋市長健康福祉局健康部保健医療課地域看護係
 新潟県教育庁生涯学習推進課
 新潟県教育庁総務課
 新潟県厚生連労働組合
 新潟県産業労働部産業政策課
 新潟県新発田地域振興局健康福祉環境部
 新潟県障害者交流センター
 新潟県聴覚障害者情報センター
 新潟県立生涯学習推進センター
 新潟県総合政策部統計課
 新潟県総合政策部統計課健康づくりセンター
 新潟県福祉保健部
 新潟県福祉保健部健康対策課
 新潟県福祉保健部福祉保健課
 新潟県県民生活・環境部男女平等社会推進課
 新潟県県民生活・環境部防災局
 新潟県県民生活・環境部防災局原子力安全対策課
 新潟県立図書館
 新潟大学
 新潟大学研究支援部国際課
- 日本看護協会**
 日本赤十字愛知短期大学
 日本赤十字広島看護大学
 日本赤十字武蔵野短期大学
 日本尊厳死協会
 日本図書館協会
 日本難病看護学会
 日本リウマチ財団
 人間環境大学
 ヌーヴェルヒロカワ
- は行**
 はばたき福祉事業団
 肥前精神医療センター
 兵庫県立大学看護学部
 兵庫県立大学大学院看護学研究科21世紀COEプログラム「ユビキタス社会における災害看護拠点の形成」事務局
 広島修道大学
 福井県立大学
 福井県立大学地域経済研究所
 平和祈念事業特別基金
 防衛施設技術協会
 放送大学
 北海道医療大学看護福祉学部
- ま行**
 丸善
 宮崎公立大学
 メディア教育開発センター
 文部科学省高等教育局学生支援科
 文部科学省高等教育局高等教育企画課
 文部科学省高等教育局専門教育課
- や・ら・わ行**
 薬害HIV感染被害者(患者・家族)生活実態調査委員会(はばたき福祉事業団)
 安田記念医学財団
 山形大学医学部看護学科
 山梨県立看護大学
 吉山直樹教授
 読売新聞東京本社
 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
 渡辺 泉(著者)
 渡辺久子(慶大医講師)
 渡辺弘之講師
- 英数**
 JACT(日本代替・相補・伝統医療連合会議)

<新規受入寄贈紀要・雑誌>

<紀 要>

- Annual report, St. Luke's College of Nursing, WHO Collaborating Centre for Nursing Development in Primary Health Care
 医療看護研究/順天堂大学医療看護学部
 大阪女学院大学紀要
 神奈川県立保健福祉大学誌
 岐阜県立看護大学機能看護学講座教育と研究
 健康科学大学紀要
 国立女性教育会館研究紀要
 心的トラウマ研究/兵庫県こころのケアセンター
 北海道医療大学看護福祉学部学会

<雑 誌>

- Progress in Informatics/国立情報学研究所
 Q&Aでわかるアレルギー疾患
 小児保健シリーズ/日本小児保健協会

図書館だより 第18号(2006年1月12日発行)
 編集:新潟県立看護大学図書委員会
 発行:新潟県立看護大学図書館
 〒943-0147 上越市新南町240番地
 TEL 025(526)1169
 e-mail:tosyo@niigata-cn.ac.jp URL:http://lib.niigata-cn.ac.jp/